

Information2

今回は、【咳】についてのお話です。

私たちが咳をする原因には何がありますか？

“一過性(むせる)・風邪・喘息・心疾患・乾燥・ホコリ・寒暖差”など様々…
人と同様、動物も咳をして原因も似ています。

そもそも咳は、呼吸する時に外部からの異物(ホコリ・細菌・ウイルス)を外に押し出すための**防御反応**です。



人の咳は、
『コホコホ・ゴホゴホ』

咳の表現として…



犬・猫の咳は
『ゼーゼー・ガーガー・
ゲッゲッゲッ』

“吐くような仕草”が特徴です!!

何ポイント貯まった!?

～院内でよく見かける“咳”の三大病気編～

*咳のタイミングは?

- ・タイミングなし…0
- ・安静時…1
- ・運動時…2

*咳の表現は?

- ・口を閉じた状態でグーグーグー…0
- ・痰が絡んだ咳(カーツ・カッカツ)…2
- ・ガーガー・ゼーゼー・ヒューヒュー…1
- ・咳の最後にクハー…3

*寝ている時の呼吸は?

- ・静かにスヤスヤ…0
- ・少し早い(1分間に25回以上)…3

*咳の強度

- ・激しい…1
- ・弱い…2

- ・0～2ポイント：逆くしゃみ
- ・3～4ポイント：気管虚脱
- ・5ポイント以上：僧帽弁閉鎖不全症

⚠注意あくまで可能性なので検査を踏まえましょう!

気管虚脱



空気の通り道である気管が、途中で潰れてしまい呼吸ができなくなる病気。

高齢のみならず、若齢の子にも起こります。

寝起きや朝晩のタイミングに咳をすることが多くみられます。

進行すると、咳の増加や咳が止まりにくくなり**呼吸困難**になりかねません。

僧帽弁閉鎖不全症



心臓病の1つ…『**血液の流れは必ず一方通行**』

逆流しないために心臓には4つの弁があり、その1つの弁が“僧帽弁”です。

左心室から左心房に血液が逆流を起こしてしまう病態のこと…

高齢小型犬に多く見られ、**運動時の咳・運動をしたがらない**など心臓に負担がかかると、最悪の場合肺水腫になり**命にかかわります**。



逆くしゃみ

咳と間違えやすい症状の一つで、原因がハッキリしていませんが副鼻腔およびその他上部呼吸器に関係する病気ではないかと言われています。

大きな音をたてて無理やり息を急激に吸い込み続けることです。

命にかかわりませんが、頻度によっては検査をしましょう。

予防として

“**肥満、激しい運動、興奮させない・寒暖差・室温湿度・バランスの良い食生活**”

この一つずつの心掛けが大切です。

うちの時間が長いからこそ

できることから始めていき環境を整えましょう!